

# KOMIZAWA 1×2 流通経済大学

試合後まさかの敗戦に天を仰ぐ中後(中)。首位浮上だけでなく自力優勝を逃したショックは大きい (撮影・野澤俊介)



## 完璧に近かった85分

## サッカーの恐ろしさが出た残り5分…

### ラスト5分の悲劇

優勝を目指し負けられない戦いが続く中、上位チームとの直接対決三連戦がこの日幕を閉じた。前節、首位との勝ち点差を2まで詰め逆転優勝の兆しが見えていた駒大。内容よりも結果が求められている今、絶対ものにならなければならない一戦であった。

「入り方はほぼ完璧に近い、ウチらしい良いサッカーが出来ていたと思う」という小林亮の言葉通り、毎試合課題としていた試合の入り方は修正され、流れは駒大ペースであった。「いつもより前からプレスが効いて、それがいい流れできていたと思う」(中嶋)というように、この試合では中嶋や小林竜の積極的にボールを奪いに行く姿が目立ち、相手ボール奪取に成功したところからの攻撃が駒大にリズムを与えていた。また、巻の高さも活き再三好機を演出。18分に訪れた決定的チャンスも赤嶺が確実に決め、試合の主導権を握る。その後も駒大がゲームを支配して前半を終える。

後半に入り流経大が駒大ゴールに迫りくるも守備陣が安定した守りをみせ1-0のまま時間が流れ、勝利が見えてきた。しかし、試合は残り5分で急展開を迎える。流経大栗澤にドリブルで抜け出され、栗澤のパスに瀧原が合わせ同点弾を浴びる。直後、勝つて首位浮上を狙っていた駒大は焦りをみせ、ゴールを奪いにくいも逆にカウスターを喰らい、相手に逆転ゴールを上げられてしまう。「点を決めたいという事に気を取られ過ぎ、守備のところ疎かになってしまった」(小林亮)戦いを優位に進めていただけにこの結果に悔が残る。

この試合を見てとれるように、90分間集中して自分たちのサッカーが出来るか出来ないかに勝敗はかかっている。「最後までひたむきにやるのがうちのポリシーというか根本的な部分であると思うので最後まで諦めないで自分達のサッカーをこのフィールドで表現出来るように頑張りたい」(鈴木祐)。この敗戦から首位との勝ち点差が再び5にひらき、自力優勝は消えたものの優勝の可能性はゼロではない。優勝は他力本願となってしま

ったが、上を向いて残された可能性に向かい突き進んでほしい。(伊藤優香)